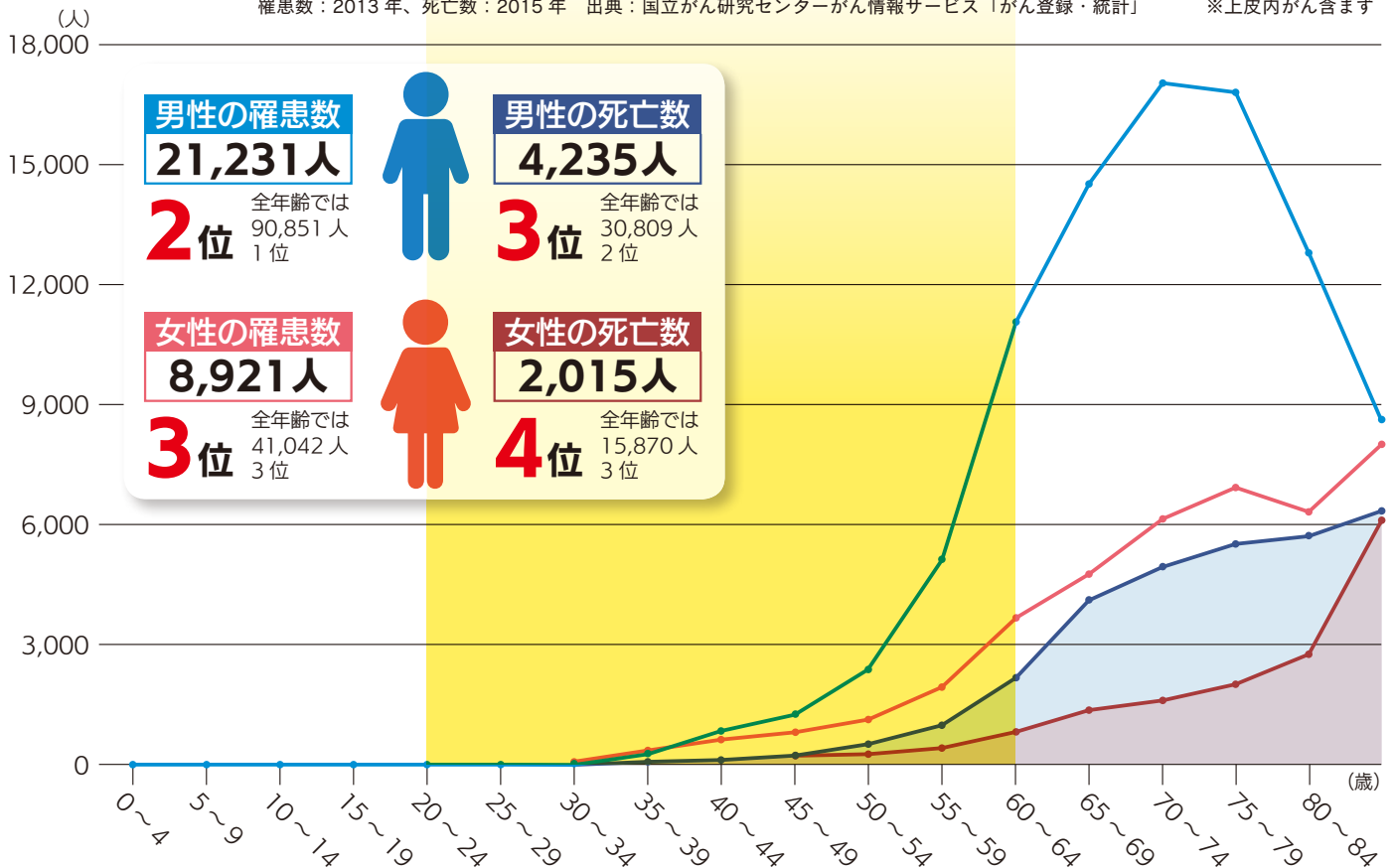


働く世代 (20～64歳) の罹患数と死亡数

罹患数：2013年、死亡数：2015年 出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

※上皮内がん含まず



<p>男性の罹患数 21,231人</p> <p>2位</p> <p>全年齢では 90,851人 1位</p>	<p>男性の死亡数 4,235人</p> <p>3位</p> <p>全年齢では 30,809人 2位</p>
<p>女性の罹患数 8,921人</p> <p>3位</p> <p>全年齢では 41,042人 3位</p>	<p>女性の死亡数 2,015人</p> <p>4位</p> <p>全年齢では 15,870人 3位</p>

- 胃がんは働く世代の男性に多くみられ、死亡数も多い。女性の死亡数も3位の肺がんとはほぼ同じで、少なくない。
- 罹患数は男女とも40歳代から、死亡数は50歳代から増えはじめる。

塩分のとりすぎや喫煙、ピロリ菌の感染などが要因

胃がんは、胃壁の粘膜内の細胞ががん化したものです。進行するにつれて胃壁の中に入り込み、リンパ節や肝臓、肺、腹膜などに転移します。

胃がんの要因としては、塩分のとりすぎや喫煙などのほか、胃の粘膜にすみつくヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）という細菌の持続感染が指摘されています。

ピロリ菌の感染率は上下水道が十分普及していなかった時代に生まれた中高年で高く、感染していることがわかれば除菌療法（健康保険適用）が推奨され、定期的に胃の検診を受けることがすすめられます。

胃がんのリスク要因

- 塩分の多いものをよく食べる。
- たばこを吸う。
- 飲酒量が多い。
- 野菜、果物をあまり食べない。
- ピロリ菌に感染している。